視覚障害者に対する理解を深めるための資料の作成

広島市立大学国際学部1年　中間希々花　藤岡奏　白水いち子

はじめに

視覚障害者の方の支援や課題、現状はいまだ広く知られていない。特に視覚障害者が助けを求めている際のサインについてはその人の安全を確保するためには重要であるが、その認知度は低い。この問題を解決するため、白い杖SOSシグナルをひろめる会(以下ひろめる会)の協力・助言をいただきながら、視覚障害者の目となり、視覚障害者の方の声を社会に届けるための動画、パワーポイント資料を作成した。

活動の流れ

1.ひろめる会代表森井さんにヒアリング
2.公式の文字資料を参考に資料を作成
3.ミーティングを再度行い、資料の調整を行う。模擬講演の開催を決定
4.広島市立大学生協前で12月17日に模擬講演

模擬講演の流れ

1.「白い杖SOSシグナルをひろめる会広島」代表森井さんのお話
2. 動画視聴
3. ゲーム体験（ランチゲーム・お金ゲーム）

模擬講演後のアンケートからの考察

特に注目したい結果: 質問6 動画・パワーポイントの理解度についての調査結果(図1)

- 対象者は少人数であったが、講演会全体を通して「視覚障害者に関する理解を深める」という目的は達成できた。
- 一方で、今回制作した資料のみでは理解を十分に深めることは難しく、情報量や提示の仕方に課題があった。
- 資料を活用する際には、ただ流すだけでは効果が薄く、動画を途中で止めて補足説明を加えるなどの工夫が必要である。
- 今後の改善点として、資料の情報整理や提示方法を再検討し、参加者の理解をより確実に支援できる形にする必要がある。

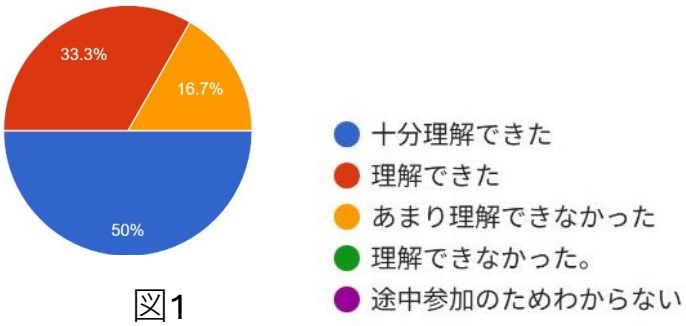
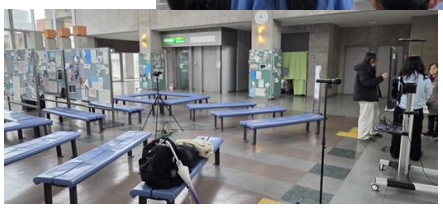


図1



まとめ・今後の展望

今回の模擬講演を通し、資料の内容や提示方法について多くの学びを得た一方で、参加者数が少なかったことから、アンケート結果には偏りが生じ、十分に多様な意見を集めるには至らなかった。また、資料の活用方法についても改善の余地があり、特に動画をただ流すだけでは理解が深まりにくい点について、今後の工夫が必要であると感じた。今後は、今回得た反省点を踏まえて資料の提示方法を見直し、より効果的に理解を促せる形へと改善していきたい。さらに、協力していただいた団体の活動で本資料を活用していただける機会があれば、参加者の反応や理解の深まりを直接確認したいと考えている。

謝辞

・「白い杖SOSシグナルをひろめる会広島」森井さん
・地域共創センター特任准教授　平尾先生
・広島市立大学地域連携コーディネーター勢良さん
・地域共創センター米田さん

3つのひかり　未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University